



地域風景資産の選定10年 ビフォー ⇄ アフター

地域風景資産誕生から10年の間に、活動や地域、風景にどんな変化があったのでしょうか？特徴的な事例をご紹介します。

「地域風景資産」を守り育てる人の輪が生まれました！

現在、31のグループや個人によって、地域風景資産で活動が行われています。

選定をきっかけに生まれた活動も、数多くあります。



会員 300 人を超えるグループも

第1回選定をきっかけに立ち上がったコマの。どんだん輪を広げ、現在会員は300人超！



風景の中で活動！地域で連携も

長島風景の会は、選定を契機に活動の場をふるさとを感じる風景の中に移すことができました。地域の団体の連携も広がっています。

風景の魅力がアップしました！

選定や地道な活動の継続によって、風景の魅力がアップしました。



地域が関わり きれいであたたかい風景に

船橋小径の会は、土の小径の管理を続けるとともに、区の補修に参加の風景にあたたかい手づくりの魅力も加わりました。



選定をはずみに保全も

選定をきっかけに所有者と話し合う中で、成城三丁目崖の林市民緑地が誕生！

課題に対して 知恵を絞り、行動を積み重ねた 10 年でもありました

活動が停滞している資産や活動人が不在になってしまった資産もあります。いかに資産を見守っていくか、活動を継続していくか…資産や活動は違ってそれぞれ共通の課題です。一方、10年の中で風景としての魅力が大きく変化してしまった資産もありますが、それを機に、コミュニティの結束を強めた活動もあります。風景づくり活動には、一面的・一時的な評価を行うことの難しさがあると言えます。



つながる 広がる 風景づくりの輪

地域風景資産にはたくさんの特徴的な活動があります。座談会とコラムを通して、10年で培われた活動の広がりやネットワークをご紹介しますことで、風景づくり活動の魅力やヒントをお伝えします。

座談会

1

地域を越えた連携で 深まる風景づくり

地域風景資産で活動を進めているグループ同士が連携や交流を深めることで、それぞれの現場での活動を充実させているのも、地域風景資産の特徴です。

ここでは、お互いの現場に赴いて活動のノウハウの共有や協力を進めている、3つのグループの活動人が、連携のメリットや秘訣を語ります。

- 特定非営利活動法人 土とみどりを守る会 堀内さん
…奥沢海軍村ゆかりの風景（Ⅱ-13）、大ケヤキのある散歩道（Ⅰ-20）で活動
- 法人格 成城自治会 中川さん
…成城の桜並木といちょう並木（Ⅱ-22）で活動
- 深沢・桜新町さくらフォーラム 稲垣さん
…旧・新町住宅地の桜並木（Ⅱ-10）、呑川親水公園（Ⅰ-10）で活動

「成城の桜並木といちょう並木」にて

特徴が似たまち同士で活動の知恵を共有



稲垣：「旧・新町住宅地の桜並木」が地域風景資産に選定され、「深沢・桜新町さくらフォーラム」としての活動をはじめた2年目に、活動の先輩である中川さん・堀内さんのお話を伺いたいと私たちのグループの集いにおいでいただきました。

その時をきっかけに、3つのグループの連携がはじまりました。



堀内：深沢に伺った翌年、今度は「土とみどりを守る会」の活動現場である奥沢に、おふたりのグループに来ていただきました。お互いの活動現場を訪ね合うことを通して、これからも活動の相乗効果を生み出していければと思います。

深沢・成城・奥沢は、それぞれ大正～昭和初期に

計画的につくられた歴史ある緑豊かな住宅地です。成城や深沢は“住宅地の並木道”が美しく、奥沢は“個人宅の豊かなみどり”が道に潤いをもたらしています。このような特徴のあるまちならではの問題である落ち葉への対策については、3つのまちに共通する関心事です。先行して取り組んでいた成城のノウハウを共有し、情報交換を行ったり、互いの現場で協力を進めてきました。

「地域を越えた連携」から「地域内」の連携へ

堀内：“歴史ある緑豊かな住宅地”を末永く守り育てるためには、若い世代も含めた地域の方々と意識を共有していくことが重要です。そのためには、楽しく活動を進めていくセンスが必要と感じます。「土とみどりを守る会」は、活動をはじめてもうすぐ15年目。楽しく交流しながらまちづくりの話聞く「つどい」の開催や、「街並み選奨」の選定、シンボルフラワーの配布など、地域の魅力や課題について地域住民自らが考え行動する活動を、地道

に続けてきました。活動を積み重ねることで、日常的にも住民同士がまちのことについて話し合える関係づくりができつつあると感じています。昨年は、個人宅のみどりをまち全体で大切にしていこうと、地域ぐるみで落ち葉掃きにもチャレンジすることができました。



中川：成城では、地元の学校や商店街などと協力し、落ち葉掃きを続けることで、地域への意識が高まり、改めて風景の魅力に対する

理解が深まっています。「風景」や「みどり」というテーマは、誰もが参加しやすい地域への入口となっていると感じます。落ち葉掃きに参加している地域の子どもたちには、地域の人々とつながることを通して、このまちを「ふるさと」として愛着をもち、地域に根付いてもらいたいなと思っています。

東日本大震災後、「防災」については、若い世代も関心が高まっており、地域での行動につながりやすくなっています。防災も含めて、さまざまな方が地域へ関わるができる入口づくりを行うことで、地域のコミュニティの力を高めて、風景づくりに還元していきたいものです。

稲垣：深沢でも、まち歩きの他、「土とみどりを守る会」にならって、コンサート、紙芝居など親しみやすい企画や地域の風景づくりの講演などを組み合わせた集まりを開催して、地域の方の参加を広げているところです。

「旧・新町住宅地の桜並木」の桜の枝は、個人の敷地に入り込んでいるものもありますが、住民みんな大切にしています。「みんなで譲り合っ

て風景を保っていこう」という意識を広げていきたいです。

あらゆる出会い・交流の機会を大切にしていこう！つながりを広げよう！

稲垣：他の活動グループと連携を深め、活動のヒントを得たり、活動の相乗効果を図っていくためには、あらゆる機会を活かして、さまざまな人とつながろうとすることが大切だと思います。

地域風景資産の選定のしくみは、風景が活動グループとセットとなっている点がユニークです。地域風景資産は、建物や樹木など点的な資源、道路や緑道、線路などの線状の資源、地域に面として広がっている資源などさまざまで、活動の仕方も異なっていると思います。似たような資源で活動しているグループが集まり交流する機会をつくっていくと、連携もより深まると思います。

堀内：地域風景資産の選定は、地域の思いに位置づけを与え、さらに地域で主体的に活動を生み出すという難しいことを、行政の施策として取り組んでいる珍しい例だと思います。

このしくみによって生み出された風景づくり活動が地域で展開していくためには、活動グループ間の連携に加え、地域の中で活動グループが町会・自治会や学校などと知り合う機会を設けていくことも非常に大切だと感じています。

中川：どんどん外へ出かけて行って、同じような課題意識のある人と仲間になれるといい。最後は行動力ですね！私たち3つのグループも、今後輪を広げていけるといいなと思っていますし、私自身、もっと多くの人々と交流し、いいところを取り入れていきたいと思っています。

*

活動グループ同士がお互いの活動現場に赴き、ノウハウの共有や協力をし合うことで、メンバー全員で活動のヒントを得て、明日の活力を得ていくことができるんですね！

(財) 世田谷トラストまちづくりと 地域風景資産

世田谷区の外郭団体である「(財) 世田谷トラストまちづくり」は、区民主体のまちづくりの支援、「公益信託 世田谷まちづくりファンド(以下、ファンド)」の運営、市民ボランティアとの緑地や歴史的な建物などの保全活動などを行っています。地域風景資産で活動を行っているグループの多くは、これらの取組みと連携し、活動を進めています。

ここでは3つのグループの活動人が、連携の効果を語ります。



「古道・滝坂道」にて

- 上北沢桜並木会議 和田さん …上北沢駅前の桜並木 (I-33) で活動
- 豪徳寺駅周辺風景づくりの会 青野さん・花形さん …歩いて楽しい北沢川緑道 (II-14)、古道・滝坂道 (II-15) で活動
- 三宿の森を育てる会 速水さん …三宿の森緑地 (II-4) で活動

運営資金、楽しくPR、新たな活動の展開に…。 「まちづくりファンド」の活用



和田:「上北沢桜並木会議」は、「上北沢駅前の桜並木」が地域風景資産に選定された後、烏山総合支所と住民との月例会議をきっかけに、地元中心のメンバーを中心に結成しました。結成とほぼ同時にファンドに応募し、まずは会報の発行やホームページの開設、桜並木マップの作成から始めました。

この初動期の活動により、新住民やさまざまな得意分野を持った人材などの参加も得られ、現在の多様な活動の基盤ができたと感じています。

地域の理解を得ながら活動を進めていくためには、活動の成果を伝え、PRをするための各種資料の印刷費のほか、桜の保全育成に関する講師料、地域のイベントへの参加費や各種備品代など、さまざまな費用が発生します。そういう中でファンドは力強い活動の後押しになりました。

現在の活動資金は会費が中心です。幸いにも会に対する一定の認知・評価を頂き、地域や行政からの理解・協力を得て活動を続けています。



青野:「豪徳寺駅周辺風景づくりの会」は、2つの地域風景資産が選定された後に、ファンドに応募。

できることから

楽しく風景のよさを地域に広げたいという思いでファンドを活用しています。

1年目は活動のスタートアップ、2年目は2つの地域風景資産を紹介するマップの作成、3年目は風景づくりのアイデアをまとめるワークショップの開催。そして4年目の今年度は、念願の滝坂道の標識板の作成や、北沢川緑道の照明実験が実現しました。

ファンドの活用を通して、活動の地固めを行い、取組みを進めたことで、2つの地域風景資産のファンが増えつつあります。



速水:「三宿の森を育てる会」はおふたりのグループとは違って、ファンド活用後に活動フィールドである「三宿の森緑地」が地域風景資産に選定されました。

三宿の森緑地は、区と世田谷トラストまちづくりが公園づくりのワークショップを開催し、地域住民が計画段階から参加してできあがった公園です。低木の剪定や草刈など公園管理事務所から委託を受けている緑地の管理作業にはそれ程のお金を必要としませんが、ファンドに応募したことで、虫や野鳥の観察会の開催やホームページの開設などを実現することができました。活動の幅を広げることで、地域で緑地の魅力を共有できるようになったと思います。

ファンドをきっかけに、活動も視野もネットワークも広がる！



花形：ファンドを受けて、活動を進める上での人脈や連携できる資源が広がりました。

例えば、「豪徳寺駅周辺風景づくりの会」は、小さな竹材に「滝坂道」と焼

き印を押したグッズをつくりました。材料となる竹は、世田谷トラストまちづくりが管理している竹林の手入れに、我々が参加して伐採したものを活用。仕上げの焼き印は、同じくファンドの助成グループだったプレーパークで押させてもらいました。

ファンドで得られるネットワークが、活動現場で大きな力となることを感じました。

速水：ファンドの助成が終了した後も、助成グループとして、印刷機を貸していただいたり、専門的なアドバイスを受けたり、引き続き活動をサポートしていただいています。

青野：助成グループの交流会もあり、ネットワークも広がります。助成金以外のサポートも、ファンドを受ける大きなメリットですね。

和田：いろいろなグループと交流すると、視野が

広がります。これから活動をはじめようというグループには、広く門戸が開かれているファンドの存在を、ぜひ知って、活用してほしいです。



*

風景づくり活動を進める上で、活動資金をどうするかは大きな課題です。

地域風景資産に選定されること自体に資金支援のしくみはありませんが、世田谷トラストまちづくりの制度を活用することで、資金支援だけではなく、専門家による相談や助成グループ同士の交流の場を通して、さまざまな活動ノウハウを得られ、大きなサポートになっています。

世田谷まちづくりファンドとは…

(財)世田谷トラストまちづくりが事務局となって1992年から運営されている、区民主体のまちづくり活動の支援を行うファンド(助成金)です。

これからまちづくりの第一歩を踏み出そうとしている活動に対して助成を行う「はじめの一步部門」。この次のステップであり、1団体につき最大3回助成が受けられる「まちづくり活動部門」などが設けられています。座談会に参加した3グループをはじめ、地域風景資産の活動グループの多くは、この2つの部門を中心にファンドに応募しています。

応募した団体は、企画書作成や公開審査会でのプレゼンテーションを経て、助成が決定します。助成グループには、「学びあい育ちあう場」として、年2回の活動発表会を通して、活動グループ相互の情報交換や学習、ネットワーク形成の機会が提供されています。

※平成24年3月時点での情報です。

一つの活動グループから 複数の地域風景資産を 推薦し活動するということ

地域で大切にしたい複数の風景を、地域風景資産に推薦することにより、地域の、そして地域風景資産の魅力を高めることにつなげているグループがあります。

3つのグループの活動人が、複数の地域風景資産で活動を行う視点から、地域風景資産の意義と可能性を語ります。



- 特定非営利活動法人 **せたがや街並保存再生の会 松田さん**
…清明亭（Ⅰ-12）などで活動
- 喜多見ポンポコ会議 **江崎さん** …畑の間の土の道（Ⅱ-29）などで活動
- 特定非営利活動法人 **芦花公園花の丘友の会 田瀬さん**
…水辺の自然とふれあえる蘆花恒春園「みんなのトンぼ池」「やごの楽校」（Ⅱ-20）などで活動

蘆花恒春園「やごの楽校」にて

失われつつある世田谷の近代住宅を 役割分担して地域風景資産に！



松田：「せたがや街並保存再生の会」は、近代住宅の保存・再生を目的に活動しています。地域風景資産の選定のしくみづくりに関わっていたメンバーも多く、

それぞれで思い入れのある風景を推薦し、選定された資産は16カ所にのびます。区内に点在する近代住宅を地域風景資産として浮かび上がらせたことで、アピールにつながっていると思います。グループのメンバーが個々に推薦して、選定されてから約10年、推薦者の引っ越しなど個人的な事情から活動が行われていない資産が生まれてきました。今後は、グループとしてこの課題を考えていこうと、改めて資産をめぐるまち歩きなどからはじめています。

喜多見にある大切な風景をどんどん 地域風景資産にして魅力を内外にアピール

江崎：「喜多見ポンポコ会議」は、喜多見の魅力を再発見する活動を続けています。メンバーそれぞれが自分がよいと感じていた風景を推薦し、選定



された地域風景資産は6カ所あります。畑や寺社などの民間の資産が多いのが特徴です。

所有者の方の事情で、風景に変化が起こりそうになったこともあります。

そんなとき、単なるひとり言や世間話ではなく地域風景資産として選定されていることで、「この風景を大切にしたい」ということを地域の思いとして所有者の方に伝えることができ、風景を守ることにつながったこともありました。

これからも、地域にたくさんある「いいな」と思う風景をどんどん推薦して、喜多見の魅力を地域で共有していきたいと思っています。

活動が積み重なり資産が生まれてきた 芦花公園



田瀬：「芦花公園花の丘友の会」は、芦花公園をフィールドに、花壇づくりやビオトープづくり、花の丘フェスタの開催など、さまざまな活動を行っています。グループでは、

第1回選定では花壇づくり、第2回選定ではビオトープと自然観察小屋づくりに尽力しているメンバーの思いで推薦し、それぞれ地域風景資産として選定されました。どちらの資産でも、地域の子どもや大人、企業の協力を得て取組みを進めています。

このように、芦花公園では、花や自然、子どもなど、何かを「好き」という気持ちをもった人材が、常にアクティブにグループのメンバーと知恵を出し合い、新しい活動にチャレンジすることで、徐々にコミュニティを広げています。

地域風景資産のしくみをPRして活動を盛り上げていこう！

江崎：長年活動を続けてきて、地道にコツコツと活動を続けていくことが、とても大切だと感じています。その結果、地域の方から感謝されたり、賞をいただくなど外部から評価も得られ、活動の励みになっています。

東日本大震災以後は、これまで活動に関心のなかった方や活動からしばらく離れていた方の参加も得られつつあります。コミュニティや地域での活動に関心が高まっているのは、追い風だと感じます。子どもから大人まで楽しめる活動を盛り込んで、活動の輪を広げていきたいです。

松田：「せたがや街並保存再生の会」では、小学生とその親をターゲットにしたパンフレットの作成やイベントの開催を通して、近代住宅の価値を伝え広めることに加え、新たな世代がグループへの参加のきっかけとなるよう取組みを進めています。世田谷区に住む88万人のうち、地域で活動しているのは、1%にも満たないんじゃないか。そう考えると、対象となる風景の幅を広げるなど、少し地域風景資産の取組みも敷居を下げて、風景の魅力をより多くの人と楽しめる取組みになればよいのではないかと思います。

田瀬：「芦花公園花の丘友の会」は、活動を続けて約15年になります。私自身、芦花公園のすぐそば

に住んでおり、毎日の暮らしの中で常に活動を意識してまちを歩き、人とつながり、行動に移してきました。その結果、活動前には想像もできなかったような楽しく美しい公園が、多くの人々の手によって息づいています。「継続は力なり」という言葉を実感しています。

私たちのグループには思いをもった人材が集まり、常に新しい活動を生み出しています。もっと多くの区民のみなさんにも「身近なまちでアクションを起こしていいんだ!」ということに気付いてほしいです。

この点で、地域風景資産の選定というしくみは、「まちで新しいことにチャレンジしてみたい!大切な風景を地域で守り育ててみたい!」という思いがあれば、誰でもアクションを起こすことができるしくみとして画期的ではないかと思います。もっとPRに力を入れて、より多くの方に地域風景資産の選定について知ってもらい、せたがや中に風景づくり活動が広がってほしいですね。



*

地域風景資産は、資産ごとに「風景づくりプラン」を書き、現場でのプレゼンテーション、公開選定会…といくつかのプロセスを経て選定されます。座談会では、選定後も各グループが、地域風景資産というしくみを活用し、それぞれの目的を達成すべく力強く歩んでいるのが印象的でした。

このような活動の積み重ねが、せたがやの風景を支えていると改めて実感させられます。

コラム

広域での連携

● 大山みちの会

…池尻稻荷神社を中心とする旧大山道（I-1）で活動

大山街道は世田谷だけじゃない。ならば赤坂から伊勢原まで全部つないでみよう！

かつて関東各地から大山の神仏への参詣者が通った「大山街道」。道中の各地で育まれた郷土の息づかいを現代にも伝えていきたい…。池尻稻荷神社での「寄席」など、地元での活動に加え、赤坂から伊勢原にわたる沿道各地で活動する団体や自治体とも連携し、各地で行われるイベントや行事にも相互で参加協力を行い、街道全体のPRに取り組んでいます。

とりわけ近年では、大山街道沿いのまちが1年を通して連携する動きが出てきています。平成22年度には伊勢原で納太刀イベントの開催、平成23年度には川崎市で「二子の渡し」が復活…とニュースが尽きません。これも10年の取組みの成果だと思いと感無量です。

活動をはじめて10年が経った今、私たちの思いに共感して区内外から集まった会員は約40名。それぞれのまちの郷土史家や観光協会のスタッフ…など人材も幅広く、楽しくゆるやかに活動を続けています。



せたがやボロ市でのPRには、伊勢原や川崎からのメンバーも



川崎市高津区で生まれ、大山みちの会が沿道の協力を得て貼り続けている「大山街道」のステッカー

コラム

企業との連携

● 世田谷線とせたがやを良くする会

…ほっとやすらぐ世田谷線界隈の情景（II-17）で活動

世田谷にしかない鉄道「世田谷線」へのファンの想いが大きなムーブメントに！

東急世田谷線は、世田谷区内のみを走る鉄道で、2両編成の車両が住宅街の中を走る風景は、鉄道ファンでなくても、区民のみなさんに愛されている風景です。「世田谷線とせたがやを良くする会」は、世田谷線をこよなく愛するメンバーが集まり、立ち上げたグループです。グループの事務局は、「特定非営利活動法人まちこらぼ」で、沿線の商店街や地域の組織、東急電鉄と連携して、沿線イベントなどのプロデュースを行っています。「世田谷線とせたがやを良くする会」としては、事務局を通してイベントに参加するなど、自ら世田谷線とその沿線を楽しみながら活動を行っています。現在は山下駅に「たまでんカフェ山下」という拠点もでき、展覧会や講座、展示会や講演なども行っています。

地域風景資産「ほっとやすらぐ世田谷線界隈の情景」は、5kmある線的な資産です。この特徴を活かして、沿線にある他の地域風景資産をつないでいくことで、世田谷線自体の魅力をアップしていければと思います。

こうした活動を進められるのも、鉄道事業者さんの地域への理解や協力を惜しまない姿勢があつてのこと。地域の資産を企業の協力で育てていけることに感謝したいと思います。



世田谷線沿線フラワリングの様子

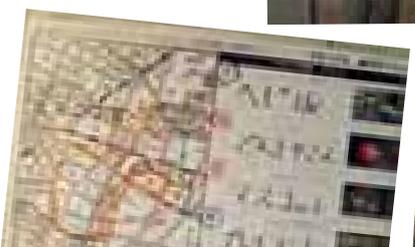
風景づくりフェスタ 2012

活動の集大成が一堂に！

みんなで作ろう！せたがやの風景

来る平成24年の地域風景資産選定10周年及び、第3回地域風景資産の選定に向けて、2日間にわたるイベントを開催しました。風景づくり活動を進めているグループによる活動紹介、新しい風景づくりにつながる風景の写真展、まち歩きイベントやポスターセッションなど、盛りだくさん。多くの区民のみなさんと、風景づくりを楽しみました。

日時：平成24年1月21日(土)・22日(日)
場所：北沢タウンホール 12階 スカイサロン





1日目

親子で、みんなで、フィールドワーク ～北沢の『面白い』を探そう～

下北沢を舞台に、地形に着目して「へび坂」を見つけた親子チーム、赤い色に着目してまちの賑わいを捉えた一般参加チーム、今に息づくまちの歴史風景を見いだした活動人チーム。

まち歩き後の発表では、子どもの鋭い質問に、大人が一生懸命答える姿も！



2日目

風景づくりdeフォト&ポスターセッション

風景写真の応募者、風景づくりのアイデアも盛り込んだ風景づくりの種の応募者、活動グループが一堂に会し、エールを送りました。



18作品の風景づくり活動のポスター発表は圧巻。これまでの活動の集大成を垣間見たのでした。



基調講演&パネルディスカッション ～みんなで作ろう！せたがやの風景～

自治体まちづくり研究所の原昭夫先生の基調講演後、原先生と、東京都市大学の岡山先生、世田谷風景じゅくの福澤さん、船橋小径の会の西川さん4名によるパネルディスカッション。



満員の会場は、“わたしたちが風景づくりを担っていかねば”という熱気に包まれていました。詳しくは、48ページへ！



常設展示

せたがやの気になる風景づくり

現在・今昔の風景写真34作品、風景づくりのアイデアを盛り込んだ風景づくりの種27作品、活動グループのポスター18作品などが、会場を彩りました。



これからも、わたしたちの手で
せたがやの風景を守り育てていきましょう！

